

## Contents

### 01 巻頭言

稲野 和利「若者よ、闘え」

### 02 2011 年 代表幹事年頭見解 決断の年

### 04 特集

経済三団体 新年祝賀パーティー  
合同記者会見

### 08 リレートーク 川鍋 一朗

「バッカーズ寺子屋という  
日本の将来に対する私なりのアクション」

### 09 経済同友最新線

リーダーシップ・プログラム  
第6期（2009年度）活動報告

学校と経営者の交流活動推進委員会  
墨田区立寺島中学校 桜井正光代表幹事講演

中国委員会 中国訪問報告

日経センター・政策提言シンポジウム

アフリカ委員会

会員懇談会  
ダニエル・ケン・イノウエ氏  
アイリーン・ヒラノ・イノウエ氏 講演

第1160回会員セミナー

下川 和男

日本電子出版協会副会長・イースト取締役社長  
「電子出版の過去、現在、そして未来」

第101回TCERセミナー

長岡 貞男 一橋大学イノベーション研究センター 教授  
「日本の科学と産学連携の現状と今後」

全国稲作経営者会議 伊藤清彦常務理事講演

景気定点観測アンケート調査

学校と経営者の交流活動推進委員会  
企業の採用と教育に関するアンケート調査

### 23 次期代表幹事・副代表幹事候補者 推薦の内定について

### 25 コペンハーゲン通信

「デンマークの“Made in Japan”」

### 26 同友会スケッチ

2010年11-12月の記録と2011年2月の予定

### 29 新入会員紹介

2010年12月17日現在の入退会者

### 30 私の思い出写真館

小島 邦夫「スロベニアへの旅」



副代表幹事  
経済成長戦略委員会委員長

**稲野 和利**

野村アセットマネジメント  
取締役会長 代表執行役

## 若者よ、闘え

アマゾンドットコムで「若者」と検索してみたら、最近1年ほどの間に出版された本の中で次のようなタイトルが目についた。『近頃の若者はなぜダメなのか 携帯世代と「新村社会」』『欲しがらない若者たち』『なぜ日本の若者は自立できないのか』『情報病—なぜ若者は欲望を喪失したのか?』。もとより筆者はこれらの本をすべて読んだわけではないが、タイトルから感じられる響きは、日本における若者の現状を悲観的にとらえている、ということになるだろう。いつの時代でもそういうことはあったであろうが、その傾向が強くなっていると思うのは気のせいだろうか。

一方で、若者が半ば「弱者」と規定されることも多くなっている。格差問題や非正規社員の問題を論じる際に特にそうである。非常に厳しい現実が目の前に存在していることも事実であるが、しかし、日本の若者はいつから弱者と規定されるようになってしまったのであろうか。本当に若者は弱者だろうか。

経済的には若者は弱者かもしれない。しかし、若者はわれわれ壮年世代には絶対にはないものを持っている。それが「若さ」である。「若さ」は人生における有力な武器である。若いということはこれからの人生において十分な時間を持っているということである。その時間を有効に使えば相当のことを成し得るということ、失敗体験も含めてわれわれはよく知っている。

知識が不足しているならば、獲得すべく努力すればよい。スキルが不足しているならば、身に付けるべく努力すればよい。

未来は不確定である。企業社会においても、確約された未来など何一つないと言っていいだろう。就職人気ランキングなるものは相変わらず存在するが、ランキングの序列は企業の未来を確約しているわけではない。若者も、われわれも、現在の姿だけに目を向けすぎてはいけいない。不確定な未来に対して挑戦していくためには、自分の手で未来を切り開いていくのだという気概が欠かせない。気概を持った上で、実行に移せる十分な時間を有しているという点において、若者には大いなるアドバンテージがあるはずだ。

庇護されるべき対象、悲観的分析の対象として若者をとらえる以前に、若者に対して積極的なメッセージを送るべきではないだろうか。「若者よ、闘え」と。